



ご存知でしたか

胎児のうちに守っておけば 生まれた日から百日咳予防が可能

- 妊娠中に受ける百日咳の予防接種は母体と胎児に安全かつ効果的という研究結果が出ています。
- 妊娠中に(28週目が最適)予防接種を受けると母体が抗体を作り、この抗体は出産前に胎児に移行します。赤ちゃんが生後6週間で予防接種を受けられるようになるまでの間、この抗体が赤ちゃんを守るのです。
- 百日咳とは咳の発作を起こす、感染力の強い細菌性感染症です。百日咳は誰でもかかる可能性がありますが、小さな赤ちゃんの場合、特に予防接種を受ける年齢に達していない新生児の場合には症状が重度になります(死亡することもあります)。
- 赤ちゃんと接触する予定のご家族が百日咳にかからないようにすることも大切です。ほかのお子さんが予防接種を受けていることを確認し、ご家族やお子さんの世話をする予定の方のなかに百日咳の予防接種を過去10年間受けていない方がいる場合には、赤ちゃんに接触する最低2週間前までに必ず百日咳の予防接種を受けてもらうようにしてください。
- 妊娠を計画されている方や、すでに妊娠している方は、妊娠中に受ける必要のあるワクチンについてかかりつけの医師やアボリジナル医療サービス、その他の医療サービスに相談しましょう。

ワクチン	推奨内容
百日咳	妊娠第3期の妊婦の方(28週目が最適)
インフルエンザ	妊娠中のいずれの段階でも構いませんが、特にインフルエンザのはやる季節に妊娠第2期または第3期を迎える妊婦の方

妊娠中の予防接種はどれほど効果がありますか

妊婦の方々が予防接種を受けなかった場合、各大型病院で毎年生まれる新生児のうち**50人**が百日咳にかかり、このうち**40人**はそのために入院が必要となります。

こういった病院で出産する女性全員が妊娠中に予防接種を受けた場合には、各病院で百日咳にかかる赤ちゃんの人数は一年間で**4人**だけになります。

妊婦の方々が予防接種を**受けなかった**場合に百日咳にかかる赤ちゃんの数



妊婦の方々が予防接種を**受けた場合**に百日咳にかかる赤ちゃんの数



出産後は

携帯アプリ「Save the Date to Vaccinate (予防接種を遅れずに受けて病気の予防を)」をダウンロードしましょう

携帯アプリ「Save the Date to Vaccinate」があれば、パーソナライズされた予防接種スケジュールが手に入り、自分の赤ちゃんの予防接種が近いことを知らせるリマインダーも設定できます。

またwww.immunisation.health.nsw.gov.auのSave the Date to Vaccinateウェブサイトからは、いろいろなビデオをはじめ、役に立つ情報が得られます。

アプリを
ダウン
ロード...



Health

health.nsw.gov.au/protectnewbornsをご覧ください